

現在  
進行中!

# 西陣を中心とした地域の活性化

西陣を中心とした地域活性化ビジョン

温故**創**新・西陣



京都市

京都市では、西陣を中心とした地域の有する多彩な魅力・資源を活かした活性化を図るため、平成31年1月に「西陣を中心とした地域活性化ビジョン」を策定しました。

現在、民間事業者と一緒に展開する2つの活性化プロジェクトや、地域で活躍中の人をつなぎ合わせる交流会などの取組を進めています。

また、ポータルサイト「にしZINE」やSNSで、これらの取組状況のほか、地域のイベント情報や活躍中の方のインタビュー等を発信しています。

ポータルサイト「にしZINE」 <https://nishizine.city.kyoto.lg.jp/>



活性化  
プロジェクト ①

## 「西陣 文化のスタートアップスタジオ構想」実現のための活動 「西陣 connect」

株式会社博報堂



「西陣 文化のスタートアップスタジオ構想」は、未来の担い手となる若者を西陣地域に呼び込み、起業家や職人を地域全体で育てるための体制づくりを目指す中長期的な構想です。

その構想実現に向け、まずは、西陣の魅力を広く発信し、国内外の人や企業を惹きつけるための活動「西陣 connect」がスタートしました。

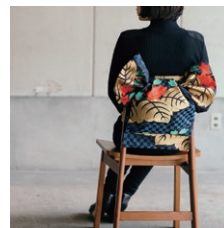
「西陣 connect」ホームページ <https://www.nishijin-connect.com/>



### ● 2つのコラボレーション作品が完成

「西陣 connect」最初の取組として、西陣が誇る伝統技術と異業種の企業とのコラボレーションによる商品開発を進め、「西陣ウェディングドレス」と「西陣ファニチャー（家具）」の2つの作品が完成。

作品の展覧を予定していた、世界最大級のクリエイティブの祭典「サウス・バイ・サウスウエスト」は中止となりましたが、様々な機会を通じてPRしていきます。



### ● 元大宮消防出張所を活動拠点に

「西陣 connect」では、元大宮消防出張所（大宮通今出川上る）を拠点に活動を進めています。拠点のオープン日は「西陣 connect」のSNS等で発信中。

今後、様々な企業とのコラボレーション等、若者を西陣に呼び込むきっかけづくりを継続するとともに、教育機関との連携も検討するなど、若者を育てる機運と体制づくりに向けた取組も進めていきます。

回覧


## 「路地から始める西陣暮らし」

特定非営利活動法人 ANEWAL Gallery

～路地の魅力を活かし、子育て世代や若手クリエイターを西陣に！～

昔ながらのコミュニティ、車が通らない空間、家賃の安さなど、西陣の路地の魅力を活かし、子育て世代や若手クリエイター等の移住促進や、暮らしの文化の継承、創造的な環境づくりに取り組んでいます。

路地の情報サイト「ろじカル」では、路地のコラムや暮らし方、遊び方、イベント情報など、路地の魅力を多彩な切り口から伝える情報が盛りだくさん。



「ろじカル」ホームページ <https://www.roji-cul.net/> ▲



### ●「西陣「路地の家具」デザインコンペティション2019」を開催

路地の魅力向上や課題解決につながる「路地の家具」（路地に設置するストリートファニチャー）のデザインコンペを開催。

海外を含む全国から75点の応募があり、一般投票会や審査員の審査により、井上湖奈美さん（東京都）の「Extension Furniture - 路地のための増築家具」が最優秀賞に選定されました。

クラフテリア

### ●西陣 路地まち工作室「KRAFTERIA」オープン

路地内の空き家を活用し、クリエイターの制作活動を支援する設備や工作機器等を備えた工房を開設。

今後、地域の方も気軽に参加できるワークショップ等も開催しながら、西陣に住まい、つくり、働く人を支援し、育てる環境づくりを進めていきます。



## 「つぎの西陣をつくる交流会 ～つぎにし～」の開催

（株）ツナグム

西陣で活動する人のネットワークをつなぎ、新たな展開を生み出す基盤づくりのため、「つぎの西陣をつくる交流会～つぎにし～」を2回開催。

各回、60名前後の方々に御参加いただきました。

西陣で活躍する7名の事業者が、自らの活動や、西陣で実現したい夢等について発表し、その後、発表に刺激を受けた参加者同士の顔の見える交流を深めました。「つぎにし」をきっかけに、参加者同士が連携してイベントが企画されるなど、新たな展開が生まれつつあります。

令和2年度も、引き続き、こうした交流の場を開催していきます。



活性化の推進にあたっては、地域や文化、産業など、各分野を代表する方々で構成する「西陣を中心とした地域活性化ビジョンの推進を支える賢人会議」を開催し、取組状況を報告するとともに、必要に応じて助言等をいただきながら進めています。